資料２

第１回佐賀市環境審議会
令和８年７月２９日
環　境　政　策　課

佐賀市環境マネジメントシステムの運用状況について
～令和7年度実績報告～

佐賀市 環境部 環境政策課

環境マネジメントシステムとは
E M S - Environmental Management System

- 企業や団体等の組織が、環境に関する方針や目標を自ら設定し、その達成に向けた取組を実施するための計画・体制・プロセスのこと
- また、こうした環境管理の取組状況について、客観的にチェックを行うことを「環境監査」という
- 環境マネジメントシステムには、環境省が策定したエコアクション２１や、国際規格のISO14001がある



佐賀市環境マネジメントシステムとは

目的

- 環境の保護及び改善に資する活動の継続的な推進
- 率先行動及び効果的な行政運営の実現

適用範囲　※市役所全体

- 事務事業や活動
- 全ての職員　約3,000人
- 庁舎、観光・文化・保健施設、学校、教育施設、企業局、病院など

実施方法

・ISO14001を参考にした独自のシステムを構築し運用

・全体を23部門（各部局、各支所及び企業局など）に分け、
重点目標や共通目標の達成を目指して、PDCAサイクルにより実施

EMSの組織と役割

管理組織

- 統 括 者 ：市長
- 管理組織：環境管理委員会　　計画実績等の評価
  事 務 局 ：環境政策課　　運用管理・内部監査
- 実行組織：全部署　　重点目標の設定、進捗管理、報告

外部評価組織
・環境審議会

1	総務部	9	保健福祉部	17	三瀬支所
2	政策推進部	10	こども未来部	18	川副支所
3	経済部	11	地域振興部	19	東与賀支所
4	農林水産部	12	各種委員会	20	久保田支所
5	都市戦略部	13	教育部	21	交通局
6	建設部	14	諸富支所	22	上下水道局
7	環境部	15	大和支所	23	富士大和温泉病院
8	市民生活部	16	富士支所		

※上記部門は令和7年度の体制。

施策目標と共通目標

・施策目標　※環境基本計画に掲げる施策に関する事業

・共通目標　※全庁共通の取組

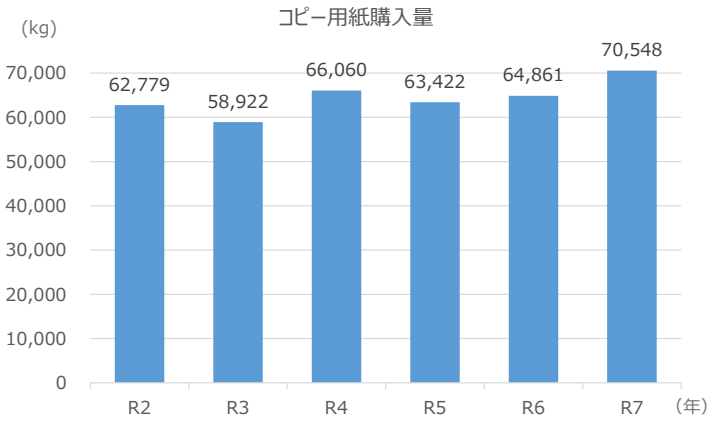
目標		削減目標（～R12）	基準年度
1	コピー用紙購入量の削減	30%以上削減	R5
2	職場排出物の抑制	12%削減	R5
3	施設エネルギー使用量の削減	20%削減	R4
4	自動車燃料使用量の削減	30%削減	R4
5	グリーン購入の推進	目標達成率100%	

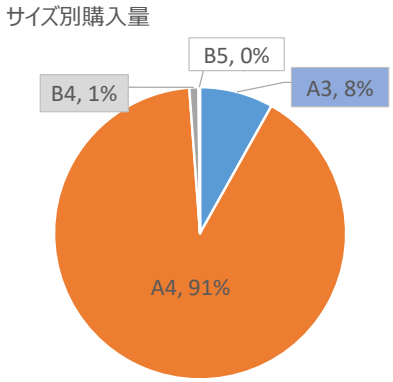
※令和6年度までは部門ごとに活動指標を設定していたが、令和7年度から全庁共通の削減目標で統一

達成度

目 標		対象部門数	目標達成部門数 R7
1	コピー用紙購入量の削減	23	13
2	職場排出物の抑制	23	9
3	施設エネルギー使用量の削減	21	20
4	自動車燃料使用量の削減	22	10
5	グリーン購入の推進	23	10

1　コピー用紙購入量の削減

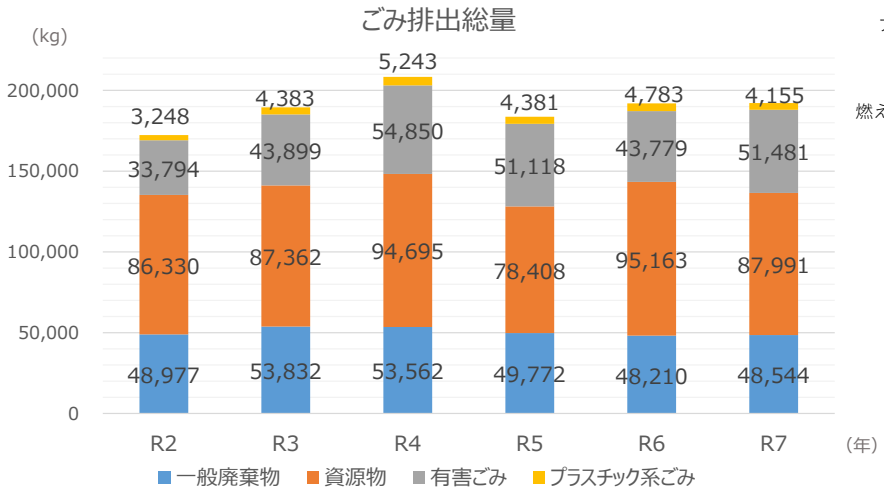


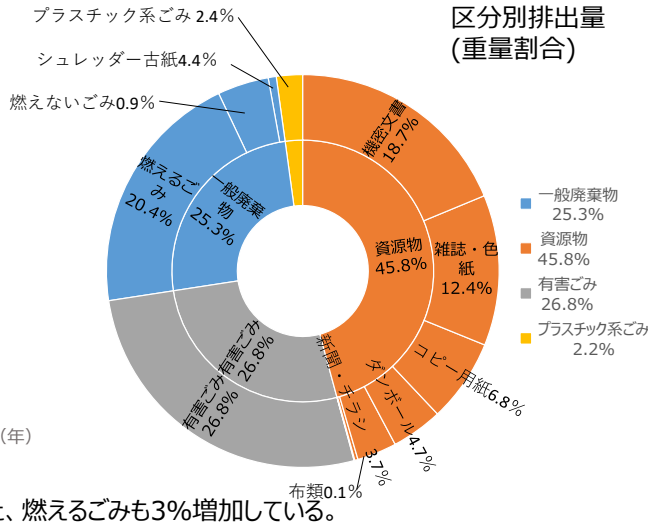


※全体で前年度比14%増加。主な要因は、3回の選挙による購入量の増加や、計画の策定や通常外業務の増加もあり目標の達成に至らなかった。

共通目標１：総務部、政策推進部、農林水産部、環境部、こども未来部、地域振興部、教育部
達成部門　　諸富支所、富士支所、川副支所、東与賀支所、久保田支所、上下水道局

2　職場排出物の抑制

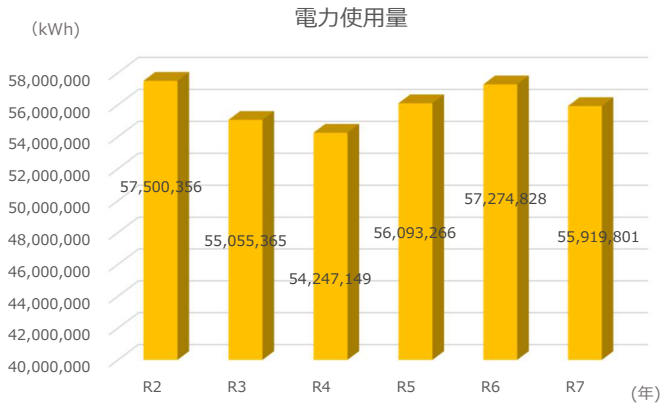


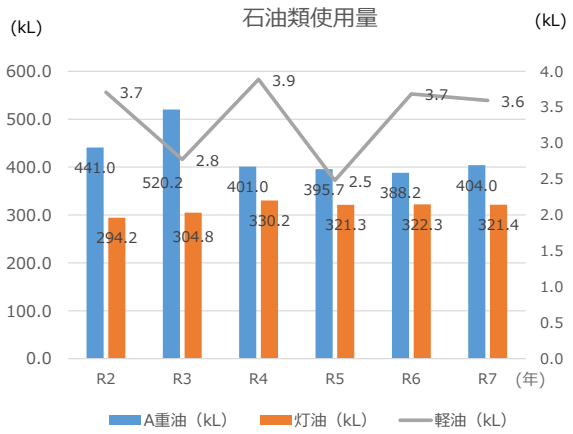


※ごみ排出総量は0.1%の増加。内訳としては、有害ごみが18%増加した。また、燃えるごみも3%増加している。

共通目標２：総務部、政策推進部、経済部、教育部、諸富支所、
達成部門　　富士支所、久保田支所、上下水道局、富士大和温泉病院

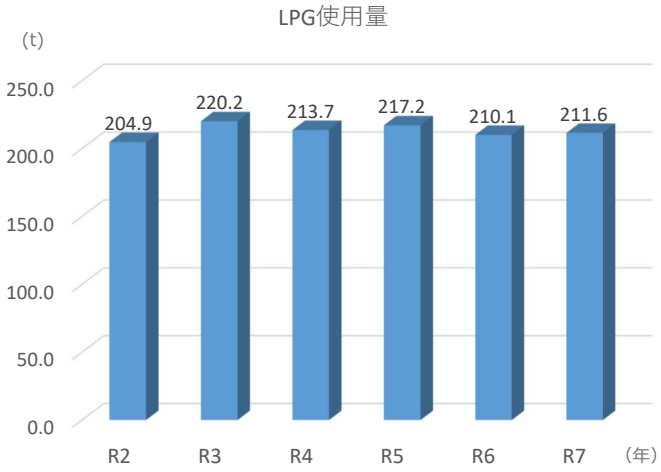
3　施設エネルギー使用量の削減（電気・石油類）

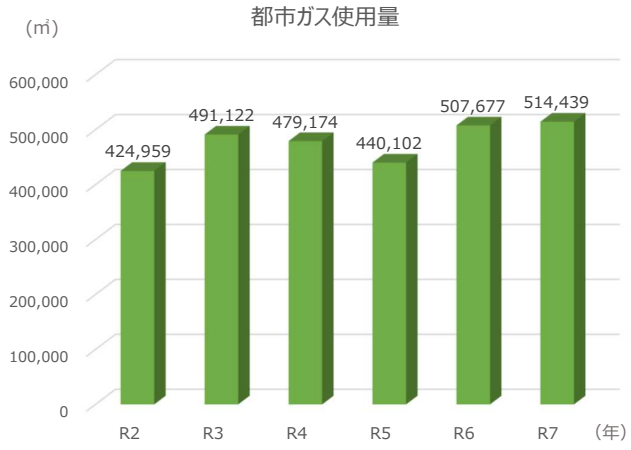




【電力】全体として、前年度比2%減少。
【重油・灯油・軽油】重油の使用量が前年度比で4%増加しており、市施設のボイラーの老朽化によりエネルギー効率が低下し、重油の使用量が増加したことがあげられる。灯油・軽油の使用量は横ばいである。

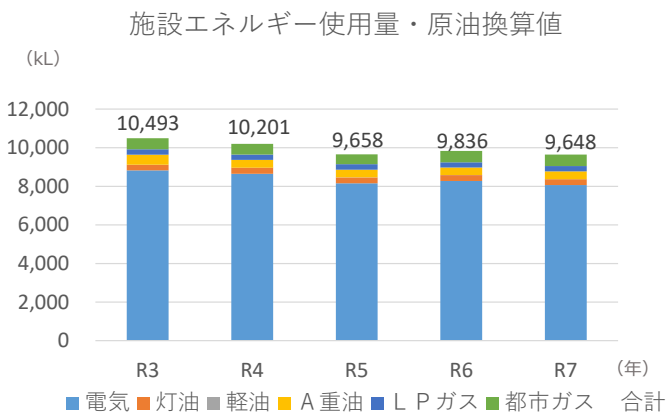
3　施設エネルギー使用量の削減（ガス）

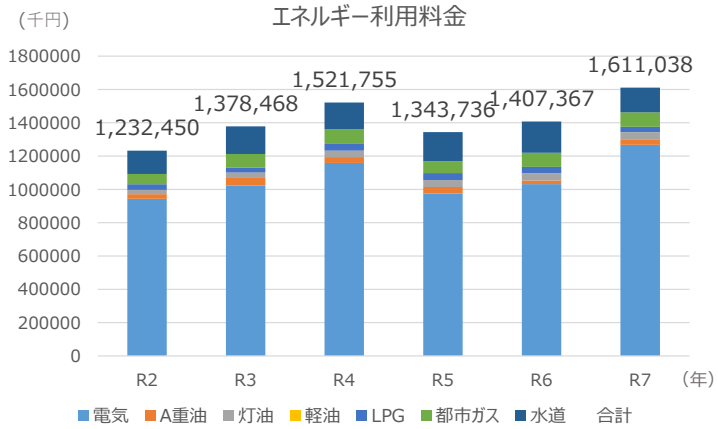




【LPG】対前年度比で約1%の増加しており、横ばいの状況。
【都市ガス】対前年度比で約1%の増加しており、横ばいの状況。

3　施設エネルギー使用量の削減（使用量・コスト）

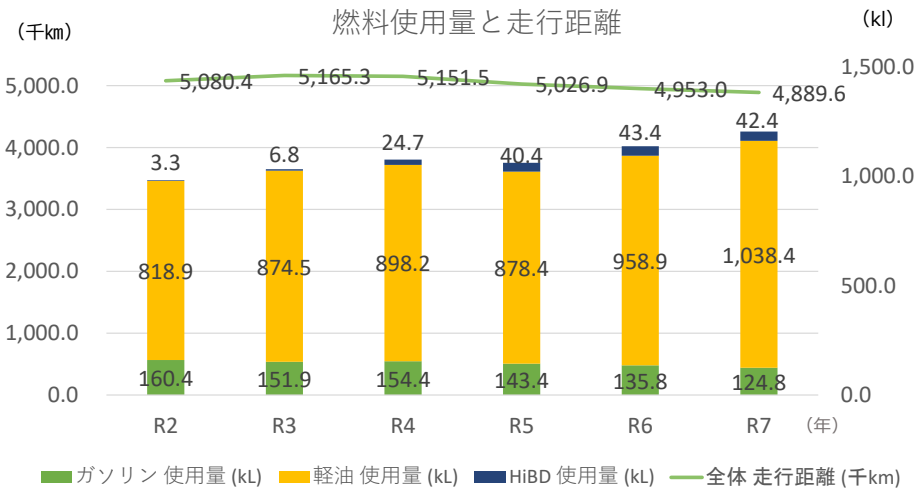




原油換算した値は全体で対前年度比約2%減少している。エネルギー利用料金は対前年度比約14%増加しており、全体で約2億円の増加。電気、重油、都市ガスの利用料金が増加しており、なかでも電気料金が約20%増加している。

共通目標３達成部門　：総務部、経済部、農林水産部、都市戦略部、建設部、環境部、保健福祉部、こども未来部、地域振興部、教育部、諸富支所、大和支所、富士支所、三瀬支所、川副支所、東与賀支所、久保田支所、交通局、上下水道局、富士大和温泉病院

4　自動車燃料使用量の削減



【走行距離】
・前年度比1%減少。
【軽油使用量】
・前年度比8%増加。
【ガソリン使用量】
・前年度比8%減少。

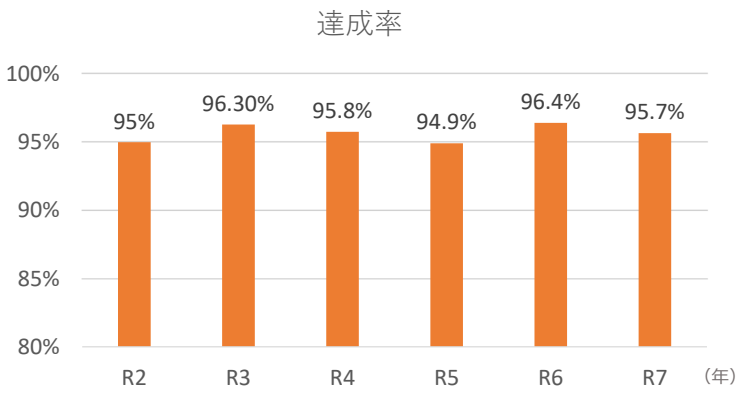
【高品質バイオディーゼル（HiBD）】
・廃食用油を回収・精製し、軽油と同等質である燃料として利用。
・R2から市営バスとごみ収集車の燃料として使用している。

※R1までBDF使用量（kL）

共通目標４達成部門　：総務部、都市戦略部、市民生活部、諸富支所、富士支所、三瀬支所、川副支所、久保田支所、上下水道局、富士大和温泉病院

5　グリーン購入の推進

- 全部門で目標達成率100%を目指す。



【主な未達成理由】
- 機能性・安全性等の観点から選択できない
- 希望する仕様が、グリーン購入適合ではない
- 価格が高価である

その他、利便性を重視した理由で未達成というケースがあることや、購入する前に必要性を考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを計画的に購入するなど、グリーン購入の基本的なことを周知徹底していく必要がある。

共通目標５達成部門：経済部、都市戦略部、こども未来部、諸富支所、富士支所、川副支所、東与賀支所、久保田支所、富士大和温泉病院、交通局

令和7年度内部環境監査

対象部門：農林水産部、市民生活部、地域振興部、教育部、大和支所

評価	内容
不適合	・環境法令の理解不足による不備（フロン排出抑制法） ・EMS関連手順書の確認不足による不備（計画書／報告書の環境法令順守状況の報告記載漏れ、排出物の分別不徹底）
改善の提案	・過去の実績を評価・分析したうえでの適正な目標設定 ・環境法令の再確認
ストロングポイント	・車両燃料使用量の削減（自転車、バス利用、Web会議の導入 等） ・オンライン申請の導入、対面形式とオンデマンド配信を併用した講演会の実施 ・コピー用紙の削減(現地調査時のタブレット使用、資料のデータ化、PC持ち寄り会議等) ・マイボトルの利用、会議等でのペットボトルの使用抑制（紙や缶の飲み物の提供） ・ボランティア清掃の実施、不要な照明の消灯

※指摘事項については、監査後速やかに是正し、全庁に注意喚起を行っています。
　また、ストロングポイントについても他部門の取組の参考となるように全庁に紹介しています。

【令和8年度監査対象】建設部、環境部、各種委員会、諸富支所、東与賀支所